

## 信用と信頼を積み重ね 100年続く企業へ！

有限会社ダイヤ商事

代表取締役社長

江口晃さん

住所…大川市榎津1111-116  
TEL…0944418712567  
FAX…0944412712679  
HP : <https://dia-shouji.co.jp>

今月の夢追い人は(有)ダイヤ商事の江口晃さんにお話を伺いました。

ダイヤ商事は、今年60年目を迎えられた機械用の刃物の製造・研磨・販売を行う会社です。

「主に木工・住宅建材・金属用刃物工具のオーダーメイド、再研磨を行っています。素材はなんであれ、あらゆる産業には材料を切ったり、穴を開けるなどの工程があり、その中で刃物は必要となります。そんな産業には欠かせない刃物の製造・販売を行っています」

先代であるお父様が

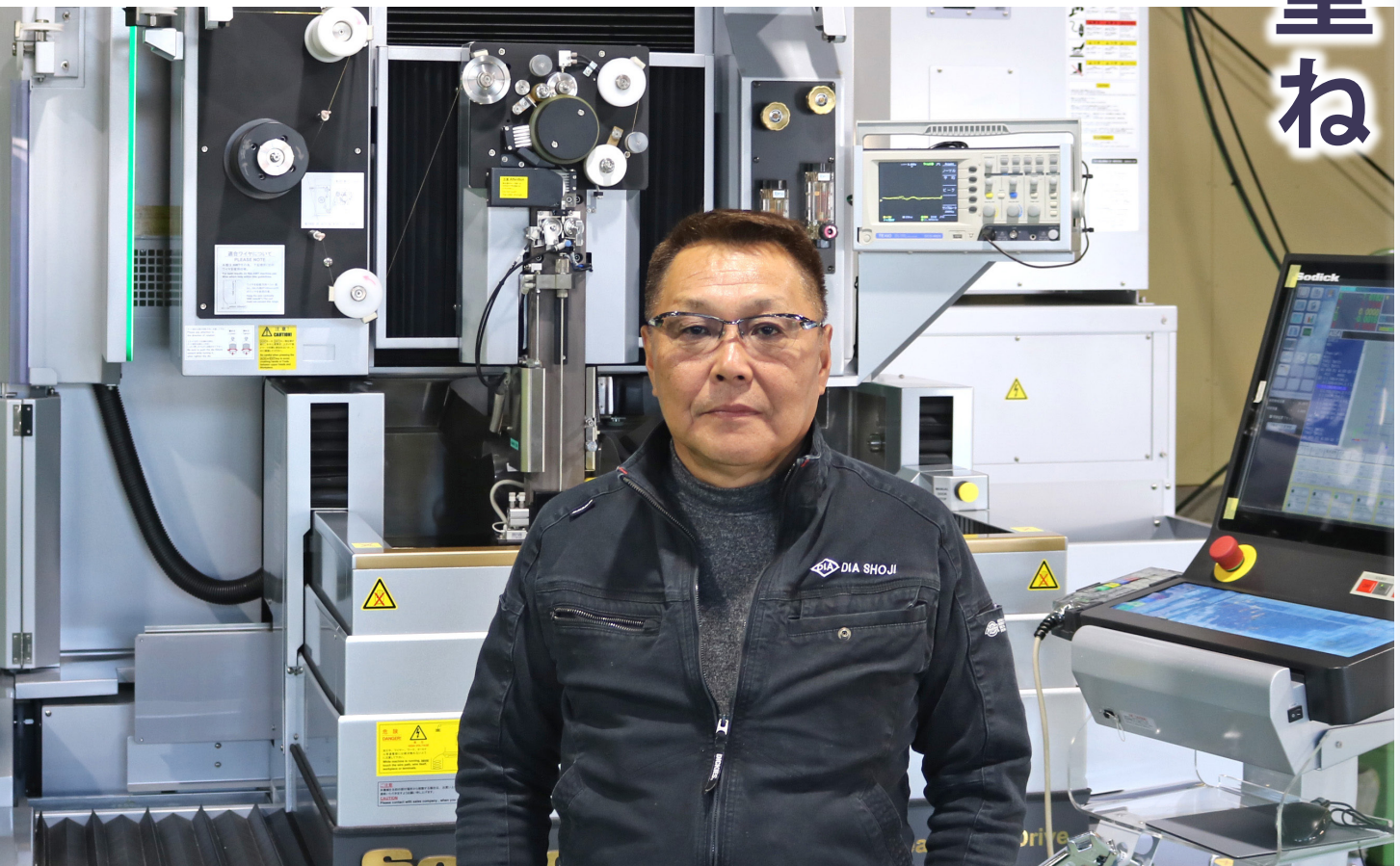
1964年(昭和39年)に創業し、江口さんで2代目になられるとのこと。

「当時は家具メーカーや、それに付随する様々なパーツ・部品関係の会社など、いろんなところでたくさんの方があつたと思います。創業当時のことはわかりませんが、私もこの会社に入って約40年が過ぎました。昭和から平成になり、また元号が変わって令和の時代を迎えて、この木工の街・大川のものづくりも大きく変わってきました。家具を製造する素材だつてそうです。昔は無垢材と呼ばれていましたが、現在では自然保護な

素材の問題でリサイクル材やMDF、パーティクルボードなどに変わってきました。その変化とともに、刃物の素材も変化が必要になってきました。以前は超硬工具と呼ばれるものが主流でしたが、現在はダイヤモンド工具も増えてきましたね。

ダイヤモンド工具の素材は、焼結ダイヤモンドのことであり、専門用語でPCDと呼ばれており、主な加工材として、アルミ・合板・MDF・パーティクルボード・住宅外壁材などを切る際に使われます。家具製造されているユーザー様にも使用して頂き、従来の超硬工具に比べると、ダイヤ

先代であるお父様が



モンド工具は、耐久性が約30倍、50倍の耐久性があり、使用して頂いているお客様には喜ばれる切削工具であり、またPCDを刃先にロウ付けし刃先に加工をします。ダイヤモンドの加工はダイヤモンド砥石での加工、EDM放電加工の作業を行い、刃先精度0・03ミリ以内の精度で刃物を仕上げます。刃物は、鋸、カッター、ルーターの種類があり、様々な測定器で検査を行い、ユーザー様に自信を持った製品を提供しています。

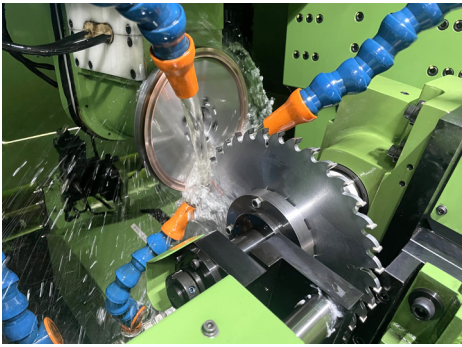
ダイヤモンド工具を製造するためには、先代と私でどうにか製造したいと考えていました。



またお客様からも近くにダイヤモンド工具のメンテナンスや再研磨ができる場所がないといった相談があり、まずはメンテナンスから。そして現在は製造まで手掛けています」

素材だけではなく、会社を取り巻く環境なども時代とともに大きく変わってきたとお話された江口さん。

「20歳の頃から会社で様々な経験を積んできました。先代がいた頃は、製造現場での作業も営業もなんでもやってきましたね。仕事があるなら日本だけに留まらず、世界各国に出向いていました。ここ最近では情勢的になかなか行けな



くなってしまいました。海外からの依頼も結構ありましたよ。

こうして60年以上事業をやつてこれたのは、技術はもちろんのことですが、信用と信頼を地道に重ねてきたからだと感じています。製品に対しては、人に対してもそうです。うちは完全受注生産で営業しています。お客様の要望に対しては、一緒に悩んで考え抜きます。

難しいと感じる話であっても、できません。ということはずいぶん。それを言ってしまうと仕事はなくなってしまいますし、お客様から頼られることもなくなってしまいます。まずはやってみよう、やってみましょう。信頼できる従業員が図面を引いてくれていますが、そこからより良い製品を生み出すためにお客様との打ち合わせなどは徹底的に行います。クレームなどは最初から全くなかったわけではありませんし、お客様からご意見を頂くこともありました。そこで謝罪して終わりじゃなくて、どうしてそう

なってしまったのかの原因を追求していく。その原因を掴

まないことには解決の道は閉ざされてしまいます。その経験やノウハウが今後につながると思っ

ています。はじめるから諦めては進歩はないです。手不足が叫ばれている

今、現場はAIの進出、オートメーション化・DX化がもつと進んでいくことが容易に考えられます。人工知能やセンサーなどを備えた機械を

少ない人数で管理する製造現場は近い将来にやってくるはず。どんな未来がやってきてもある程度対応できる備えをうちでは行っていますし、お客様の要望にも素早く対応していきたく思っています。

うちでは週に2回は従業員全員で機械のメンテナンスを行っています。悪いところ探しのようなものです。1つでも悪いところがあれば、様々なところに負担がかかってしまいます。自転車でもタイヤに空気が入っていないものに乗っていると、いつかパンクしてしまったり、何かしらの悪影響があるでしょう? 気付いたときに悪いところを取り除いていく。それを会社や仕事に置き換えて、

私達が直接関わる取引先から、その先にいるエンドユーザーにまで喜んでもらえる仕事をずっと続けていきたいですね」

信用と信頼の土台のもと、長い間仕事を続けてこられたとも話された江口さん。では、そんな江口さんの夢はなんでしょうか。

「刃物は対象物の材質、用途、切り口など、要望が様々です。当たり前と思われるかもしれませんが、高品質で短納期をこれからも実現し続けることで、お客様の信用と信頼がより積み重なっていくと考えています。そのためには時代の流れや変化にスピード感を持って対応していかなければいけません。現在は私の息子も会社に入って経験を積んでくれています。新しい材質の刃物の分野にも進出できるよ

う、私が経験したことやノウハウを息子に、そしてその先の世代にも受け継いでいく。そうすることで、100年続く企業になってほしいですし、もっと立派な会社にしていきたいです。それが望みでもあります。私の夢ですね」